

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( ~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	医療社団法人 翔嶺館 グループホーム 健寿館	評価実施年月日	平成20年 10月 30日
評価実施構成員氏名	田澤和子 森下泰裕 中村信幸 栗林悦子 楠美忍 須藤千代 嶋村智美 阿部佳代子		
記録者氏名	田澤 和子	記録年月日	平成20年 10月 30日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>・一人を大切に ・支え合う心 ・安心に暮らせる社会作り</p> <p>「地域との交流を深めながら、孤立することなく生き生きと暮らせる」</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念は毎日目に触れる位置に掲示しており、日常業務の場面で理念の意義を理解し、行動されているか、事ある毎に説明は行っている</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>理念の内容を地域の方、ご家族様のご協力・ご理解いただきながら少しずつ浸透されてきている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>日常的に地域の方々が外向いてくださるには、住宅地より離れており立地面で難しい面もあり、具体的活動があまりなされなかった。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>回数は少ないが、ご家族様のご協力にて行事に参加でき、地元の方々に交流をいただいているが、交流を深めるまでは至っていない。</p>	
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>話し合い・取組みはなされていないが、地域のご家族様からの相談等は承り助言等を施行している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員が個々にサービス内容を振り返り評価を行った事で、気付きも多く意義も理解し再認識されたと思われる。出来ていない点を意識し、更なるサービスに努めている。	○	評価内容については、経験等も異なり職員の意識の差がみられ、今後も説明・学習の継続が必要
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ほぼ定期的開催しご利用者様の近況をお伝えし、ご意見等参考にサービス向上に努めている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	相談・助言・ご指導をいただいている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	必要な方は成人後見人制度を活用している。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	日常的に『虐待とは何か』を事例をとおし分かり易く説明している。特に、入浴時には全身を観察し、傷・アザ等がないか確認している。言動・態度等気をつけているが、ご利用者様にとって不快に感じられる事もあると思われる。	○	平成21年度、職員が一人でも多く外部研修に参加できるよう計画中
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明等不十分な点があると思われるので御尋ねし、インフォームドコンセントに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	表出されない不満苦情を把握するよう心がけ、訴えやすい環境・雰囲気作りに努めている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ご家族の訪問時、近況等をお伝えし又、介護記録はいつでもご要望に応じて閲覧できるようにしている。また、毎月個別にお便りしている。 運営推進会議時、職員の入退職者の報告をしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様が来館した際、目に付きやすい場所に投書箱を設置している。 外部者への表せる機会は、苦情等の公的受付機関を掲示し説明している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	あらためて時間を作らず、その時々において積極的に職員から意見を求め、業務にも柔軟に対応できるよう努めている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状態変化を予測し業務査定を行い、ご利用者を優先するよう調整をしている。 職員の確保は難しく、不足部分は管理者が補っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職等により新しい職員が配置された時、コミュニケーションを重視した環境を設定し、一日も早くお互いに親しみの関係を保つことが出来、利用者様へのダメージを最小限に止めるよう、精神面のケアを配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>段階に応じた計画・育成はしているが、今年度は勤務上の都合にて外部研修は参加できなかった。 働きながらのトレーニングは積極的に進めており、各自の目標に向かって達成させている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他のグループホームの見学、意見・情報交換等の交流の機会を持ち、お互いの施設向上に役立っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>業務上のストレス等を生じないよう声かけ・見守りし、精神的疲労を最小限にするため定時に帰宅できるよう配慮している。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>各職員の積極性、業務に対する姿勢を把握し評価しており、各自現職業業にレベルアップできるよう努力している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>個々に表出されない部分を行動・言動にて把握し、ご本人のニーズを察知できるようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面談以外にも電話等して傾聴の機会をつくり、相手の立場を理解するように努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	情報提供はもとより、実際に観察・評価の後、支援の優先度を見極め対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	生活環境に慣れていただきながら、自然な日常生活の中で早期に介護サービスを受け入れていただくよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	支えあう関係・立場は理解しているが、時には一方的立場になっていることもある。	○	業務に流されることなく、個々に気持ちの余裕を保ち、一つひとつ行動・言動に根拠を持ち、支えあい学びを得る関係づくりに努力が必要である。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員はご家族様からご協力とご支援を受けて、一緒に支えていく関係を築いていると思われるが、真の喜怒哀楽を共にするまでには至っていないと思われる。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	ご家族様の訪問と声かけ等を行い、より良い関係を継続できるよう配慮している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	希望に応じてつながりが継続できるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の性格、体力等配慮しながら環境作りをし、ご利用者様同士がより良い関係を保つことが出来るよう見守っている。 ご利用者様同士は互いに支えあって生活している。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院等にてサービス終了後も定期的に面会を行い、ご家族様等の関係は継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向にできるだけ沿えるようにしているが、満足されるまでは至っていないと思われる		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス開始前の情報収集に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日、個々の心身状況・状態を観察しながら、一日の活動を調整している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎日の申し継ぎにて、情報の共有と意見交換をし、ご本人またはご家族様の声をもとにサービスの工夫を凝らし介護計画を立案している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	現状に即した新たな計画を作成しているが、実施が先になり、計画作成後になることがある。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活状況を個別に記録し、個々の全体像が把握できるようにしている。記録等は、情報収集や共有が出来るよう工夫を凝らしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望時には支援いたします。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察、消防等との協力体制をとっている。ボランティアを組入れてはいないが、中学生の体験学習を受け入れている。	○	
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	対象となる方がおりません。	○	
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	対象となる方がおりません。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご家族様と相談のうえ支援しています。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症にも見識のある医師により、いつでも相談・支援を受け速やかな診断・治療を受けられる体制が整っている。 定期的に診察があり、病状および認知症状の変化に早期対応が出来ている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護師が常駐しており、健康管理を継続的に行っている。</p>	○	<p>健康増進および予防し、病状の変化、予測される急変対応が出来るよう、常に看護師から説明と対応方法を指導されている。</p>
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院計画書に基づき、病院と連携を取りながら早期退院に向けている。 入院時に安心して療養生活が過ごせるよう、管理者は時間の許す限り病室を訪問し、病状の回復等を把握して予定より早期に退院されるよう努めている。 ご本人が希望される場合は、ホームで療養することがある。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>説明はしているが、具体的内容までに至っていない。 「出来るだけ早い段階」の説明は、時間の経過とともに変化すると思われるため、その段階が近づいたときに話し合いを行っている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>終末期のあり方について現状の中で『その人らしく』終末期ケアを続けられるか、職員への肉体的・精神的重圧を量ると、ご利用者様に満足が得られる支援は難しいと思える。</p>	○	<p>職員全員が終末期支援とはどういう事なのか理解し、終末期のご利用者様およびそのご家族様が悔いを残すことなく穏やかな最後だったと想えるような支援が出来るよう、終末期ケアに向けて知識はもとより精神・肉体的に訓練が必要。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>情報を活用しながらご家族様・ご本人様の要望を最優先し、精神的肉体的に負担の軽減を図るため、心身の変化を察知しながら個別対応し、環境に適応していただけるようには配慮している。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>接遇の基本を踏まえながら、個々の状況に応じて親しみのある言葉遣いで対応させていただいている。 記録等は個人情報を遵守するよう、決められた場所以外への持出しを禁止している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>言語・行動等によるサインを見逃さないよう日常から見守りし、迷いが生じないような説明に努めている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを重視しているが、時には職員側のペースになっている場合も見受けられる。 日々の過ごし方は、ほぼ希望に沿っていると思われる。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>日常的に美に無関心にならないよう、身だしなみは清潔感のある装いをしており、外部に出かける際はおしゃれをして気分の高揚するような支援をしている。 理美容に関しては、外部の出張サービスを利用している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理、配膳、下善は個々にあった作業をしていただいている。 食事環境は、食するに集中していただくよう清閑に努め誤嚥の回避に配慮している。 おやつ時は、楽しく歓談する時間としている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個々人の嗜好は提供されていないが、好みのおやつを選択するようにしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	基本的にオムツを使用せず、日中はトイレで排泄するよう排泄リズムを把握し、トイレ誘導に心掛けている。 体力消耗や病状等変化の見受けられる方は、夜間オムツを使用し安眠を優先している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	午前は活動時間、午後は入浴を兼ねた休憩時間と大別している。 入浴は一人週2～3回実施し、希望に応じて音楽を聴きながらリラックス入浴を取り入れている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	安眠と休息のバランスを把握しながら、適度な活動および運動を取り入れ、自然に良眠が得られるようにしている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご自分で出来る力に合わせ、日常の役割、音楽、会話等を取り入れ気分転換を図っている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物があるときは、施設が立替ってお金を手渡すこととしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	都度の希望どおりには沿えない時があるが、天気の良い日は散歩等に出かけるよう心掛けている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族様とともに外出する機会を作り、定期的に外出される方もおられる。施設が催す外出はご利用者様全員でと定めて計画的に実施しており、体調の優れない方がおられるときは延期する。花見、食事会など年3回程行った。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙のやり取りができる利用者様はおられない。電話による会話ができる方の要望に応じている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来館する方とご利用者様とがゆっくり時間を過ごせるよう、空間の確保および環境整備している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	原則、どのような状況下においても禁止しております。しかしながら、転倒防止のため止むを得ず、1件夜間に限りベット柵を使用しております。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	階段等の危険箇所には鈴を掛ける等の工夫を凝らし、日常生活に違和感がない弊害防止と安全確保に努めております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	目の届かない範囲にカメラを設置し、事前に危険を察知できるようにしている。個々の状況や状態に応じ頻回に見回り・訪室を多くし安全を確保しています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の御利用者様の状態を把握し、その方の現状に合った物品の管理・保管をしていただいております。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	毎日の申し継ぎやカンファレンス時に現状にあった事例を出し、具体的な内容で説明を行っています。急変・事故はいつでも起こるものだという危機感を持つようにしております。 また、行方不明時の対応マニュアル作成、関係機関に配布する為の個人の特徴や写真を記載した個人票作成、火災時の連絡・避難マニュアルを作成するなど各事態に対応できる準備をしております。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	書物やマニュアルの知識に終わらずに、管理者から現在御利用者様が起こりえる急変や事故の事例を交えての対応に関してのカンファレンスを日々行っております。更に抜き打ち的に事故対応を訓練しております。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、近接の病院との合同火災避難訓練を実施している。 避難誘導については、他者でも一目で解るよう自室の表札に担送・護送・独歩の色別をし、災害時の対応に備えている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	必要時や状況の変化に合わせて、その都度、管理者より御家族様への説明の時間を設けており、実施する介護内容について了解・同意を得ております。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの病状や体調変化の早期発見に努め、病状や体調の変化を予測してケアにあたっております。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報は常に職員が閲覧できる場所に整理整頓されております。職員が薬の効用や副作用を理解するように日々のカンファレンスを通して説明をしております。 また、薬の出し入れ・手渡し・服用の際に職員が3度のチェックを行い、誤薬が起きないように徹底しております。薬の変更時にはかならず御本人様の容態や体調の変化を細かく観察しております。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	日常より自然排便を心掛けており、食事や水分で排便がスムーズに行えるようし、排便の習慣化に努めています。 また個人の排泄パターンを観察・把握し薬に頼らない排便ができるように心掛けております。運動を取り入れ機能低下を防止し、排便が見られない時は水分量のアップや腹部のマッサージ、肛門のウォッシュレットによる刺激、及び肛門マッサージを行うなど、自然排便が出来るようにしております。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後必ず見守りと全介助にて口腔ケアを行い口腔内の状態を把握しています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事に関しては、栄養士により管理されており、御本人様の食べやすい形状や配置をし、また視覚からの食欲を刺激し、可能な限り自分で召し上がられるように工夫しております。水分においても個々の目標量を設定し、温度や量、飲みやすい工夫をし、目標に近づくようにしております。また、下痢や散歩後などは脱水症状にならないように注意しております。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	御利用者様は日常的に手洗い及びうがいを励行しております。汚染物の取扱いには、必ずゴム手袋を着用し、所定の場所に隔離・廃棄しております。入浴後は白癬症予防のために乾燥を徹底しております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、包丁、布巾を薬剤消毒・日光消毒を施し、冷蔵庫内は温度管理をし薬剤にて拭き掃除は毎日行い、また週に一度は徹底的に行い、食材の整頓もしております。また、下痢、傷や化膿がある人は調理に関わる事を厳禁とし、感染予防をしています。食中毒警報の知らせに必ず目を通すなど職員の意識も徹底しております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りは夏季は水まきや掃除を行い、冬季は雪かきをこまめに行うなどして、来館者に不快な印象を与えないように工夫し配慮しております。 親しみやすい看板をかけれないために、玄関先には植木も植樹し、少しずつ外観を整えつつあります。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	病院を改築した建物のために構造的には家庭的ではないが、植物や絵画、手作りの表札を掲げたりし、一般家庭に近づく努力をしております。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話コーナーを設けており、いつでも御利用者様が寛げるような環境整備と御本人様の体調に考慮し休憩できるよう廊下にはソファを設置しています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	寝具や家具、食器は御本人様が慣れ親しんだもの、又、思い出がこもった物をお使いになられて配置しております。職員も物の大切さを認識し丁寧に取扱いをし、日常会話の中でその思い出の話題を組み入れながら過ごしていただいております。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ホーム内外を問わず、衛生・環境の整理を毎日施行しています。毎日定期的に換気と湿度・温度等の環境整備を整えています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>日常生活の中で運動機能の向上を目指しながら個々の能力に応じて安全面を考慮し、ホーム内の環境等の整備・工夫をしています。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>御利用者様との会話を多くとり、また現状において「出来る事」と「出来ない事」の見極めをし、出来ない事は工夫しながら自立した生活へと働きかけています。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>菜園の手入れや水やりをして生育を楽しみ、又、毎日の洗濯物干しと外気浴を取り入れ、ADL向上につながる様に心掛けながら行っています。季節に応じパーベキュー、焼き芋、夏祭りの一環として居酒屋風に炉端焼きも盛大に行っております。</p>		



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族 2 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい 4 ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	1 大いに増えている ② 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	① ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・認知症症状が進行せず、継続または改善されている
- ・日常生活の中で身体機能の向上および病状の安定と急変時の早急対応を目指している